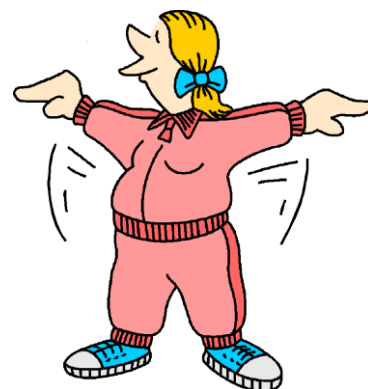


つまらないトイレ掃除を続けて減量成功

—介護現場でCLを活かす—

黒木 幹枝



あるデイサービスの中堅スタッフM子さんから相談を受けました。

「同僚のK君が仕事を辞めたいと言ってきました。リハビリやレクレーションを担当していますが、彼が企画したレクレーションやゲームを上司から何度も却下されてやる気をなくしているようです。笑顔も見られなくなっているし…、どうしたものでしょうか。」

そこで、K君に話を聞いてみました。

「自分は利用者さんを笑顔にするために、一生懸命ゲームやレクレーションを工夫してやっているのに、上司はちっともわかってくれない。周りの他のスタッフも思うように動いてくれません。他の職種のスタッフも協力してくれないし、だんだんやる気がなくなってきました」。

どうやらK君は以前私が若いころに何度か経験した「(～して)くれない病」にかかっているようです。K君にトイレ掃除の経験を話してみました。

「5年前、異動でデイサービスから病院の介護に変わった際に、業務に慣れるまで毎朝トイレ掃除を担当させてもらったの。三か月続ける予定で始めたものの、しばらくするとつまらなくて止めたくなったけど、なんとか続けようと掃除をしながら観察をしていたら、トイレ掃除の動きはエクササイズの形がいろいろあると発見。スクワット、腕を広げたり、上下する、腰のひねり、しゃごむ、立ち上がる…。楽しくてもつまらなくても体操をしようとトイレ掃除を続けていると終わるころには汗をかいて、トイレはきれいになっていて、2kgも減量して一石二鳥の仕事になっていたの」。

「もやもやしている時、私の経験どおりトイレ掃除は役にたつわよ。やる気を作ったり、楽しい気持ちにすることはできないけど、笑顔はどう？できるんじゃない」。

「K君が毎朝、元気な声と笑顔で挨拶すれば、利用者さんの笑顔を引き出す一番のリハビリになるのでは？」とアドバイスを付け加えました。

しばらくしてK君から

「周りの評価は気になるけど、毎日目の前の利用者さんの筋力や動きを観察して楽しいリハビリにつながるようなゲームを一生懸命工夫しています。ときどき、スタッフも手伝ってくれるようになりました」と報告を受けました。

自分の仕事をなかなか評価してもらえないという事実を受け入れながら、利用者さんを笑顔にしようとがんばっているK君の姿がありました。(宮崎県延岡市CLインストラクター)

 [目次へ戻る](#)